

[第 8 回目] 運動方程式を解く 2 A : 自由落下

≪今日の授業の目標≫ 運動方程式を解くとはどういうことか

◎ 一定の力が作用するときの運動方程式と

その一直線上を運動するときの解 [等加速度直線運動, 2 次関数]

例: 重力のみ → 自由落下

$$F_y(t) = -mg \Rightarrow \text{運動方程式を立てる: } \boxed{ma_y(t) = -mg} \Rightarrow a_y(t) = -g$$

$$\frac{dv_y(t)}{dt} = -g \rightarrow v_y(t) = \left[\int (-g) dt = \right] -gt + C_1,$$

$$\frac{dy(t)}{dt} = -gt + C_1 \rightarrow y(t) = \left[\int (-gt + C_1) dt = \right] -\frac{1}{2}gt^2 + C_1t + C_2,$$

一般解: $v_y(t) = -gt + C_1, y(t) = -\frac{1}{2}gt^2 + C_1t + C_2$ ※ y 軸は鉛直上向き

初期条件として, $t=0$ の位置が y_0 , 速度が v_0 のとき

特解: $v_y(t) = -gt + v_0, y(t) = -\frac{1}{2}gt^2 + v_0t + y_0$

⎧ ※合力が一定 F_0 の場合はこの問題
と同じ。 $a_y(t) = \frac{F_0}{m}$ ⎫

学習到達目標 (4) 自由落下の運動方程式を解くことができる。

次回予定 [第 9 回目] 運動方程式を解く 2 B : 等加速度運動 (教科書 45~46 ページまで)

レポート問題 第 8 回目 (右側の半分の解答用紙を切り取って提出しなさい)

数値で計算する問題は, 答えにも必ず単位をつける! MKS 単位系で答えること!

B... 問 1 教科書 43 ページの演習問題 A について以下の問いに答えよ。

- ① 設問(a)~(c)を答えよ。ただし,
 - (b) は一般解まで求め, 任意定数 C_1 は残しておく, (Step2)
 - (c) は一般解まで求め, 任意定数 C_1, C_2 は残しておく。(Step3)
- ② 設問(b)と(c)で求めた一般解と初期条件を用いて, 任意定数 C_1, C_2 を決定せよ。また, 特解 $y(t)$ と $v_y(t)$ を求めよ。(Step4)
- ③ 設問(d)~(f)を答えよ。
- ④ 問い②で求めた特解 $y(t)$ から $v_y(t)$ を求めよ (微分する)。

さらに求めた $v_y(t)$ から $a_y(t)$ を求めよ (微分する)。

求めた $a_y(t)$ より, $y(t)$ が運動方程式の解になっていることを確認せよ。

⎧ 求めた $a_y(t)$ の式を初めに立てた運動方程式に代入し, 両辺が等しくなり, 等号が成り
立つことが確認できれば, $y(t)$ は運動方程式の解である。 ⎫

- ⑤ 加速度 a_y , 速度 v_y の時間変化の様子をグラフで表せ。
- ⑥ 物体の位置 $y(t)$ の時間変化をグラフで表せ。

休講 6 月 11 日 (火)
補講 6 月 15 日 (土) 2 時限 @B0201

=====
中間テスト直し 6 月 20 日 (木) 13:00 まで

提出方法は, 小テスト直しと同じ。宿題の解答用紙の裏に書ききれない場合にかぎり, 別紙 (レポート用紙など) で提出してもよい (学籍番号と氏名は書くこと)。

中間テストの答案そのものを, 直して提出しても加点はしない。再返却もしない。

中間試験欠席者は, テスト直しと同じ要領で提出すれば加点。公欠はさらに $+\alpha$ を考える。

必ず守ることを

解答用紙 (授業 曜 限) 学籍番号 _____ 氏名 _____

数値で計算する問題は, 答えにも必ず単位をつける! 指示がない限り MKS 単位系で答えること!

問 1 ① 図に描け

(a) $F_y(t) =$



運動方程式:

$a_y(t) =$

(b) Step 2 のみを行う。

(c) Step 3 のみを行う。

②

特解: $y(t) =$

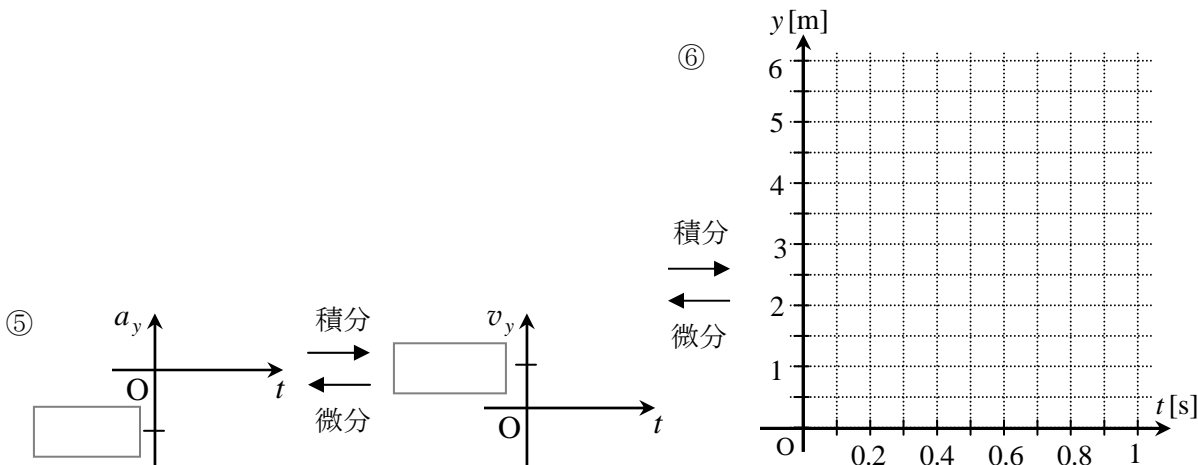
, $v_y(t) =$

③ (d)

(e)

(f)

④



☆このレポートをやるのに _____ 時間 _____ 分,

それ以外に力学 I の予習復習を _____ 時間 _____ 分した。